

台湾の科学に耳を傾けよう



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2019年5月6日（月） [SAFETY](#)

あらゆる物質の安全性は、私たちが曝露されている量によって異なります。安全であると一般に認められているものも含め、曝露レベルが高いとあらゆる物質が有害になる恐れがあります。たとえば気分が悪い時、医師から「アスピリンを2錠飲んで午前中に電話してください。」と言われることがあります。アスピリンを1瓶全部服用すると毒になり、死に至らしめる恐れがあります。

その原理は、毒性学の父として知られているスイスの医師 [Paracelsus](#) によって16世紀に認識され今日では一般的に「毒も薬も用量次第。」と言われています。処方薬でも環境中の汚染物質でも何でも安全性を理解するためには、「投与量」または曝露レベルを知ることが非常に重要です。

台湾の研究者による[最近の研究](#)では、台湾の住民へのBPA曝露をどのように推定したかが記載されています。著者らが指摘したように、これは「台湾の一般住民と幼児の両方に対する食事曝露の推定に関する包括的かつ最新のデータを提示した最初の研究」です。

BPA曝露のほとんどは食事によるものであるという理解のもと、研究者らは台湾の人々が摂取した食品を代表する278の食品サンプル中のBPAレベルを測定しました。そのデータセットは一般的に入手可能な食品メニューの一種と考えることができます。

実際に人々が食べるものは大規模[台湾国民健康・栄養調査](#)に基づくもので、衛生福利部の支部が個別に実施しています。研究者らは、実際に台湾の人々が食べている食品中のBPAレベルを合計することによってBPA摂取量を計算しました。幼児から65歳以上までの範囲の年齢層について、摂取量をグループ毎に計算しました。

台湾の住民の BPA に対する安全性は、BPA 摂取量と欧州食品安全機関(EFSA)による最新の [安全摂取限度](#)とを比較して決められました。研究者らが結論を下したように、全ての年齢層の 95 パーセンタイル BPA 曝露(すなわち高曝露量)でさえ「食事由来の曝露のリスクはない。」としています。

[CLARITY コア研究](#)結果がまだ得られていない 2015 年に EFSA が BPA の安全摂取レベルを設定したので、この結論を特に再確認しています。CLARITY 研究結果は BPA 研究にとっては前例のない規模と範囲であり、人々が生涯にわたって BPA に曝露した時でさえも BPA が健康影響を引き起こす恐れはほとんどないことを示しています。研究報告書とともに発表された [声明](#)の中で、米国食品医薬品局(FDA)の食品動物用医薬品部副長官 Steven Ostroff 博士は次のように述べています。「初期レビューでは、現在認められた BPA 使用法は、引き続き消費者にとって安全であると言う我々の決定を支持しました。」

台湾に行く場合は、BPA 曝露を心配せずに郷土料理をお試してください。しかしこの台湾の新しい研究結果は近年他の多くの国々で報告されているものと同様の結果なので、たとえ台湾に行かなくても、BPA への食事曝露を心配する必要はありません。 [あなたが世界中どこへ行こうとも、](#) BPA の心配はありません。